

- | |
|--|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
A. コースワークの充実・強化
④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供 |
|--|

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《人社系》

●立命館大学社会学研究科応用社会学専攻

「海外大学共同による比較社会調査研究型教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・海外提携校の教員による共同授業を実施した。講義はTV会議システムを利用して行い、受講生は本学および海外提携校の大学院生の参加によって運営した。
- ・毎年4名程度海外講師を立命館大学に招聘し、授業外も含め直接コミュニケーションがとれる講義も行った。
- ・受講者個々人間でかなりの程度社会調査メソッドの習得状況の差が存在していたので、個別に履修を指導し、必要な能力の養成に努めた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・受講生は正規のGP受講生(国際比較調査まで行う)と、それ以外に任意の科目を履修できるオブザーバー制度を設け、多くの院生が参加できるよう考慮した。
- ・欧米とアジアの知的ネットワークをつくるため、特に平成21年度は海外提携校以外からも講師を迎え、グローバル化の中で進む地域の現状とその理論等について講義を行った。
- ・社会調査メソッドの修得および情報発信力の養成を目的とした履修モデルを作成し、それを履修指導に活用した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・平成21年度本科目の受講生(一期生)は、正規生3名、オブザーバー生4名の計7名(2年次に1名正規生になる)、平成22年度受講生(二期生)はGP正規生4名、オブザーバー生2名の計6名であった。海外提携校は平成21、22年度とも約5名の受講生であった。
- ・履修モデルは自己の能力形成のモデルとして役割を果たした。

《医療系》

●広島大学医歯薬学総合研究科創生医科学専攻

「バイオデンティスト育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

医歯薬学総合研究科で既に関講されていた講義形式の共通科目「生命・医療倫理特論」、「感染症の発現機構とその制御」、「バイオデンティストリーの創生展開」および「研究特論」を補完するコースワークを実施した。プログラム期間内に改善を重ね、共通する基礎的な生命科学の実験理論・技術を修得するスタートアップコースワークと発展的な内容を扱うアドバンスドコースワークを行った。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生が医・歯・薬にまたがった指導を受けることができるよう、医歯薬学総合研究科の多数の教員で項目ごとに演習を分担した。また、診療業務との調整がつくように、実施曜日をできるだけ固定するとともに、同一内容の複数のコースを設定し、各予定終了時刻を提示するなどの工夫をした。留学生にも対応するため、使用言語によって、英語コース、日本語コースをそれぞれ設定した。また実習内容をもとに大学内で使用する英語、日本語のテキストを作製した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

同じコースワークに参加した異なる専攻の大学院生間で、研究手技や内容に関する意見交換が行える環境ができた。また、英語コースでは英語を使うということに対して事前に参加学生の覚悟を促し、従来の日本語と英語両方で同じ内容を説明するための時間のロスが減り、より充実した内容となった。また、臨床系の大学院生および海外留学生が基本的な理論・手技を学ぶ第一段階の科目として医歯薬学総合研究科の正規の開講科目「スタートアップ生命科学コースワーク」および「アドバンスト生命科学コースワーク」として定着した。

●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本研究科には多様な分野の人材が入学している。医学・保健学・看護学・薬学など保健医療分野の知識を有しない学生に対しては、人体と生命の基礎知識を賦与するために、選択必須科目として”基礎人間生物学”を一単位受講させた。また英語力の向上のために、英語の補講（英会話、アカデミックライティング）を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

人体と生命の基礎知識は、研究科の多くの科目を理解する上で不可欠であるので、一年次早期（4月と5月）に集中した講義が行われた。英語の講師としてネイティブの非常勤講師を雇用し、学生の英語力に応じてクラス編成を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

人文・社会学を背景とする学生も、保健医療に関する講義を理解できた。多くの学生が英語力を向上させ、中には卒業時に入学時と比べてTOEICが200点上がった学生もいた。